

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30~ くらしの植物苑東屋

4月29日(火) 歴博みどりの日(入苑無料)

第109回 『春の城址公園を歩く』 中川重年

5月24日(土) 第110回 『身近な山菜』 中川重年 (本館研究部客員教授)

今週のみどころ <http://ww.rekihaku.ac.jp>



伝統の桜草展



今咲いている花: ボタン、カヤ、イチイ、ハラン、ダイコンソウ、アケビ、ミツバアケビ、ニリンソウ、フッキソウ、ハナズオウ、モクレン、アセビ、クロフネツツジ、ミツバツツジ、クルメツツジ、ツバキの園芸品種

ウラシマソウ (サトイモ科テンナンショウ属)
花序の付属体が糸状に長く伸びたれ下がります。地下の球茎で増えるので、かたまって生えることが多く、球茎の大きさで雌雄が決まるといわれています。雌雄異株で若い雄株のほうが多くみられます。



ドウダンツツジ (ツツジ科ドウダンツツジ属)
蛇紋岩地域に生える落葉低木です。樹形がまとまりやすいので、生垣や庭に植栽されます。和名は灯台ツツジの意味で、枝の分かれ方が結び灯台の足に似るのでいわれます。



イカリソウ (メギ科イカリソウ属)
山地の日陰に生息する多年草で、花卉の基部に長い距があり、花の形がイカリに似ていることからその名が付けました。英: Barrenwort といいます。



ニシキギ (ニシキギ科ニシキギ属)

秋に美しい紅葉をするのでよく庭に植えられています。枝にはコルク質の翼が4条は発達し、形もたいへん面白いです。それとは対比的に淡緑色の小さな花が咲きます。4枚の花弁と4本の雄しべ、中央に雌しべの花柱がみえます。英：Winged Spindle—Tree、中：衛矛といいます。



ムベ (アケビ科ムベ属)

常緑のつる性木本で総状の白い花序をたくさんつけます。雌雄同株で、花弁に見えるのはがく片で6枚、雄花には雄しべの中に退化した雌しべが3本、雌花には雌しべの外に退化した雄しべが6本があります。果実は熟しますがアケビのように口は開きません。中：野人瓜といいます。



ゲッケイジュ (クスノキ科ゲッケイジュ属)

雌雄異株の常緑樹で日本には雌株は少ないと言われていますが、苑内のものは2本とも雌株です。佐倉城址公園には雄株があります。日本には1905年ころフランスから渡来しました。英：Bay Laurel、中：月桂といいます。



春の紅葉



オオタザクラ



地植え桜草

